



(モスコウ製菓工場労働者の子供のための幼稚園園外保育)

ソヴェエトの就学前教育

小川正通

一、はしがき

ソヴェエトにおいては、就学前教育が相当発達しているといわれている。その全貌を知りたいものである。また知る必要がある。しかし資料が十分得られないので、そのアウトラインを把むことさえ中々容易ではない。

一体、その国體、社会組織と離れて、一國の教育制度は成立しないが、とくにソヴェエトではレーニン、スターリンも、教育をもつて共産主義社会の目標達成に対する最重要手段であると、繰返し強調している。

ソヴェエト社会主義共和国憲法(第二百二十二条)には、男女同権を規定しつつ、婦人労働保障の観点からではあるが、保育所と幼稚園を整備すべきことにも言及しているのである。

以下で紹介するソヴェエトの就学前教育は、ニューヨークにある「アメリカ・ソヴェエト全国友の会」一九五〇年出版のパンフレット、エリザベス・モース著「ソヴェエト聯邦の教育制度」—Elizabeth Moos. The Educational System of the Soviet Union 1950—の中から、その「第二章就学前の学校」の部分だけを参考のため抄訳したものである。その第一節は保育所、第二節は幼稚園となつてはいるが、簡にして要を得ていると思う。

二、保育所

(一)

ソヴェエトの子供に対する教育過程は、乳幼児期から開始される。もし母親が希望するならば、その子(三才以下)を保育所

に入れて、科学的保護を受けることができ
る。しかし本来、保育所の目的とするこ
ろは、男女同権に基づく女子の労働権の履
行にあるのであつて、子供の十分な保護が
保育所で受けられるならば、その母親は当
然安心して工業・農業・芸術・科学・行政
等の仕事に従事することができるであ
らう。

あらゆる企業は、労働婦人のために保育
所を設けなければならない。そしてそのた
めの行政的、経済的責任も、関係省の指図
のもとに、企業自体に存するのである。し
たがつて集団農場・協同組合・都市アパ
ートビル・商業組合等の人民団体は、保育所
を設けることができ、費用はその企業が負
担しなければならない。またコミュニニテ
ィーの婦人達が保育所を要望しても、その
責任を負う組織がない場合には、健康省が
援助の手をさし延るのであるが、その際は
誰れによつて組織され、誰れによつて経費
が負担されるか分問われないのである。保
育所は健康省に属する地方保健局に所属し
ていて、この地方健康局が健康所のプロ
グラム、設備、職員及び基準について、その
責任を負うことになつてゐる。しかし実際

問題としては、その最低基準そのものに大
きな開きがあることが多い。なぜならば保
育所といつても、一つのビルの中に一つか
二つのグループがあるに過ぎないものもあ
れば、保育所単独の大きい建物をもつてい
るものもあるからである。また親と地方コ
ンミニニティーのイニシアティブとは、
最低基準以上の設備を整備するに尽力し、
賑々親は自分の時間と金とをそのために寄
附してゐるのである。

(二)

保育所での保育時間は、母親の要求に適
するようにアレンジされてゐる。したがつ
て夜間勤務の婦人のためには、一日二十四
時間開かれてゐる。以前には幼児をもつ母
親は、長期の夜間勤務は不可能であつた。
たとえ保育所の職員が愛情と母親のような
思いやりで保護にあたつたにしても、ソ
ウエート当局（政府）は、長期に互る親子間
の分離を避ける主義をとつてゐる。その理
由は、当局が保育所をもつて家庭の代用物
とは考えてゐないからである。しかるに二
十四時間保育所がこの問題を解決して、今
やソウエートの母親は、ときどき終夜子供

から安心して離れることができるようにな
つた。

一般に職員の勤務時間は、看護婦と教員
が六時間、家事を担当する職員（給食と洗
濯担当）が八時間である。（もし乳児をも
つ母親である場合には、勤務時間中に授乳
しても賃金が差引かれない）食事、賑々す
べての食事が、保育所で用意されてゐる。
親は食費をカバーするに足る代金を支払
う。（四人以上の子供のある家族では無料
である）

以上の他に保育所の職員としては、校長
（この地位のためとくに訓練を受けた）一
人、医者一人、保育所看護婦一人及び乳幼
児十五人毎に助手が必ず置かれねばなら
ない。しかし看護婦が二人か三人か、教員が
二人かそれ以上必要かについては、乳幼児
数がそれを決定する。そして全職員が時々
会合し、子供の扱い方に矛盾幢着がないか
どうかを協議してゐる。

(三)

保育所をソウエート教育が、このような
地位に置いてゐることは、それが単に母親
の便宜以上のものと考えられてゐる証左で

あろう。保育所において、母親は整備された施設を知り、子供の適切な保護の仕方を知ぶ。さらにそれは希望であるわけであるが、家庭の基準をたかめるのに役立つであろう。その意味では両親教育のセンターとしての任務をもっている。屢々行われる相談や家庭訪問、また児童保護についての講義は、そのプログラムの一部分をなしている。

一種の教育活動は、乳児に対してさえ加えられている。四ヶ月の乳児にも運動が、一年半頃からは習慣養成に力が入れられている。また音楽と単純なリズムとは、保育所の年代から始まる。またここでソヴェートの子供は、集団の中で最初の経験を得るのであつて、高い椅子は一つの大きいテーブルの周囲に、三、四人の子供を収容できるようにしてあり、子供が食事をしたり遊んでいるときも、孤立してばらばらにならぬよう考慮されているし、玩具も一幼児が使用するより以上のものが用意されている。ソヴェート保育所の遊戯室は、十二人以上が遊べるよう設計され、玩具や設備も集団活動を目標に考案されている。年長グループのために、完備した保育所と同様な構

成作業、即ち組立て積木・砂場・飼育動物・絵画・工作の材料等を用いた活動が行われている。

三、幼稚園

(一)

幼児が三才になると、保育所を終えて幼稚園に入る。しかしそれは単に他の室や同一建物の他の階へ移ることも過ぬこともあり、全く新しい場所へ移ることもあるわけである。この移転は、できるだけ容易に行われるべきであつて、その重要性が十分に子供の発達の見点から、親と教師間の論題となつた。そしてこの問題に関しソヴェート教育についてのイギリスの権威者ピアトリス・キング夫人が、一九四三年に全幼稚園教員に送つた手紙を引用すれば、次の通りである。即ち、「子供の新入園の準備は、三日乃至五日以上に亘つて、それが徐々に進むことができる。こうすれば教師は各の子供を個人的に注意することが可能である。——新入園児は暖かい愛情に充ちた受入れを必要とするものであつて、かくて幼稚園をば幸福な、興味ある場所と感ずるに

ちがない」と。保育所の教員が子供と共に数日間幼稚園へ行くならば、この移転は非常にスムーズに進み、子供を安心させよう。通例、幼稚園教員は入園前にその子供の家庭訪問も行うことになつてゐる。

(二)

ロシア社会主義聯邦ソヴェート共和国の幼稚園法第一條によると、「幼稚園は三才児乃至七才児を全面的に発達せしめ、教育することを目標としたソヴェートの公的教育施設であり、それと同時にそれは労働婦人が国の工業的・文化的・社会的及び政治的生活に参加することを容易ならしめる」のである。

幼稚園も保育所と同じく義務的でなく自由意志の施設である。しかし幼稚園は各共和国の文部省がこれを所管しており、直接には地方教育局により支配されている点において、保育所と違つてゐる。けれども幼稚園が各種の団体によつて設置せられること、すべての工業的行政的企業によつて、その労働婦人のために設けられねばならぬこととは、保育所の場合と變りがない。親の支払う代金は食費を越え、大家族はその支払を

免除される。また保育所の場合と同様に、地方のイニシアティブが幼稚園の整備と設備の改善に資するところは多大である。

(三)

典型的な幼稚園は、幼児二十五人宛のグループ三つ或は四つで構成されていて、各グループは同年令児から成り、年少グループは三才乃至四才、中年グループは四才乃至五才、年長グループは六才乃至七才となっている。(註、ソヴェートの小学校一年生は七才からである)そしてグループ毎に一保育室をもち、資格のある幼稚園教員と助手とが、その保育に当たっている。先に述べたキング夫人は、幼稚園が通例美しく裝飾せられ、またたいいは植物を栽培し動物を飼育する自然の場所を片隅にもつていと書いている。また日々の昼寝のため睡眠用のポーチや食堂や特別な音楽室があり、多くは庭園の設けもある。さらに健康の改善と養育とが、幼稚園の重要任務なので、バスと日光浴の設備もそなわっている。

「園児は親の労働と要求に基づいて、九時間・十時間或は十二時間保育されるが、九時間或は十時間が普通である。それによつ

て八時間労働の親は、子供をあちらこちらへつれて行くに足る十分な時間をもつし、同時に自分自身の勤務の要請にも応じられるのである。また親が夜間勤務につき、子供が終夜潜在する幼稚園では、特別室が設けられている。一般には園児に三食を提供するが、終夜留まるものには、四食を与える。さらに「健康教育が最も重視され、正しい食物・運動・衛生的習慣の養成を目ざした一貫した方式が、この年齢児にとくに配慮されている。園児達は戸外でとくに強い雨や風の日か温度が零下十度以下の日を除いては、四時間或いは五時間以上費すことになつている」。

(四)

日々のスケジュールは、もちろん各年齢層で違つているが、メデインスキー教授によれば、四才乃至五才児のグループのスケジュールは、次の通りである。

- 八時 ……夜も滞在している幼児が起きる。
- 八時―九時 ……毎日通園する幼児到着、朝の検査、自由遊び、諸活動
- 八時 ……夕食
- 七時 ……終夜留まる幼児就床
- 六時 ……夕食
- 五時 ……夕食
- 四時 ……おやつ
- 三時―四時 ……自由遊び及び諸活動
- 二時 ……昼食
- 一時―三十分 ……昼寝
- 十時三十分 ……見学(外出) 戸外遊び
- 九時 ……朝食

如何なる形式で遊ぶかということは、この年齢層の子供にとつて根本的なことである。「それは道徳教育及び芸術教育の一手段でありまたそれは想像力及び知力を展開しかつ如何にして集団の中で生きるべきかを幼児に教える。しかしソヴェートの幼稚園では、遊びがフレールベルやモンテッソリが考案したようなひからびた、めんどろな抽象性をもつてなされてはいけない」。

遊び或は「指導された活動」とは、歌うこと、ダンス、集団ゲーム、描くこと、造形及び工作を含んでいる。そして自由時間というのは、幼児が人形或は他の玩具で遊び

或は、選択したどんなタイプの材料でも遊ぶところの時間である。それに対して「指導活動」の最も重要なものの一つは、言語活動であり、三つのグループ共に、ロ、(言葉)の練習と語いを豊富にすることに多くの注意を払っている。しかしその方法とはとくに新奇なものではない。見学と散歩も新しい経験を幼児に与え、ついで友達に話すために計画される。また教師は繰返し話られる話をし、学ばれる詩を話してやる。幼児も新しい話や詩を作る。幼児文学者は歴々幼稚園を訪ねて、自己の作品を読んで聞かせるし、園児向の新本の著作家は、自己の原稿をグループに読んで聞かせ、聞き手の幼児はそれに対してはつきり意見を述べるのであるが、若い批評家の言があんがい著作家に暗示を与えることも多いのである。また多くの時間が、自然科に与えられ

幼児は観察することを学び、周囲の世界について報告したり、気候の変化や動植物について報告することを知る。さらに年長グループには、Cubsに對する準備的経験となる遊具が提供される。幼児はまた計算したり、測つたり、時間を告げることが学ぶが、形式的なレッスンはやらない。読方も

レッスンは教えられないのは、余り早く読方を授けることは、かえつて望ましいことではないからである。

(五)

子供の早教育を希望する親の傾向は、ソヴェートにおいてもアメリカと少しも變りがない。それで学校への準備について、「家族と学校」(一九四九年)の著者ポツオイツは、次のように書いている。「多くの親はその五才児が、年齢相応でなく成人のように、読方、書方及び計算に興味を示すと誇りを感じるものである。しかしとかくする中に、この進歩は幼児のパーソナリティー全体の調和的発達とその可能性の全面的展開とを阻止してしまう」と。

各幼児のもつ可能性を展開することが、幼稚園教員の主たる目標の一つである。そしてソヴェートの教育者達は、グループに役立つメンバーとなる子供は、円満な人間でなければならぬと確信している。歴々幼稚園は「幼児集団」と呼ばれるが、その主要点は仕事と遊びを共にすることを学ぶこと、即ちなかよしと協力とにあるのである。しかし「集団とは一様な幼児達の単純

な機械的な結合であるべきでなく、各幼児が自己の興味と要求とをもつていなければならぬ」。そしてこれ等の要求は、幼児と暖かい人格関係を保ち、親切な教師によつて最もよく充足される。なぜならばソヴェートの学校においては、子供がその幼稚園生活の全学年を通じて、同一教師の指導のもとにいることは、さして難事ではないからである。一グループの大きさは、通例二十五人であるが、保育室が大きくかつ教師の他に助手もいる場合には、同時にもう少し多くの子供を保育することが可能である。幼児は幼稚園において、その覚醒時の多くの時間を費し、時には終夜滞在するのであるから、この種の個人的關係がとくに必要なのである。

さらに個人としての幼児への希望は、生活教育と手を握りつつ、集団社会へと進むことでなければならぬ。したがつて幼児は自然の障礙を克服した社会主義者の業績についての話を聞くし、ソヴェート陸軍の英雄の僚友精神について聞き、また各分野の建設的労働のソヴェートの指導者も尊敬すべきことを教えられるのである。

かような幼年期において、社会的に有用

な仕事についての習慣と熟練とが、形成されることが望ましい。そしてその習慣養成のため用いられる仕事は、アメリカにおける就学前の学校の一部のプランと非常によく似ていて、それはテーブルを置くこと、ランチのサービスのすること、植物に水を注ぐこと、動物を飼育すること、材料を整理すること、室を整理すること等々である。

(六)

幼稚園の職員は、文部省が任命しこの特殊な地位のために訓練を受けた校長、児童の発達についてのコースを経た小児科医、音楽教師、料理及び他の家事とを担当する職員によつて、構成されている。そして小児科医は常食と一般保健に関する日課とに責任を負い、彼の（恐らくは彼女の）――医者半数以上は婦人である――言は、休息とスケジュールに関して決定的である。それに対し全職員の間は、健康と教育的プログラムの調整、医者と教師双方に――全体としての児童像を提供するのに役立つであろう。

(七)

両親教育はソヴェート幼稚園の任務の重要な部分となつてゐる。各年齢グループの一人或は二人宛の親から構成されてゐる「両親委員会」は、幼稚園の仕事に対し活潑に参加する、即ちこの委員会は、教育的会合

を立案したり、親に対して建物を修繕したり裝飾したり、運動場を設けたり、遠足をやること等を計画準備する。また歴々親が保育室で工作やゲームの手助けさえも行う。幼稚園においては、会議・レクチュア・デスカッション等を行い、両親はそれに参加するようにすすめられる。教師はまた幼児の家族の状況を熟知し、必要なときには具體的なアドバイスをするため、充分時間をとつて家庭訪問を行うことが要望されてゐる。ソヴェート児童保護局が、親と学校の関係を二股に考へてゐることは、注目に値することであつて、「進歩的なソヴェートの親は、歴々学校当局に価値あるアドバイスをなし援助する」と公言してゐる。また多くの幼稚園には、「親の席」が設けられ、そこでは親と子供用の本のリストや適当な衣服の見本や常食と健康についてのパンフレット等が、そなえられ利用できるよつてゐる。さらに幼児の作品、とくに絵の模範が展示されてゐる。

(八)

幼稚園は単に真正の共産主義者教育の一つの見本として役立つのみでなく、ソヴェートの著作家によると、ラヂオの話やレクチュアや学習コースを通じて、一般大衆間に教育宣伝の責任をも負うべきである。一九四三年の戦時中には、園児数が百三

十四万人であつた。しかしこの数字は、遊び場や公園（註臨時簡易幼稚園）に出席した幼児数をも含んでゐる。かような遊び場は、就学前学校施設の重要な部分となつてゐる。そして通例それは集団農場や田舎に繁忙期にだけ開設せられ、そのプログラムの大部分は水泳、散歩、ゲームのような戸外活動である。また夏の暑い期間中だけ、都市の幼稚園や保育所は田舎に移転して保育を行う。そして農村の集団農場の作業に時々幼児を親しませ、自然や農業の初歩的知識を与へ、實際活動を経験させる。多くの場合臨時的な遊び場は、普通の幼稚園がその夏期活動を行つて成果をあげたところの農場の婦人達によつて、価値あるものとして設けられてゐる。戦後五ヶ年計画の終期には、園児数五百万人を目標としてゐるのである。

(附記)

邦語の著作としては私の手元に次の二つがある。参考のため掲げて置く。

- 一、勝田昌二氏「ソヴェートの就学前教育」(昭和二十五年)
- 一、原著ソ聯邦教育人民委員部譯編概要通信社調査部「託児所制度」(昭和二十一年)

(筆者、奈良女子大学幼稚園主事)